

8月がきた。  
真夏の青空と灼熱の太陽のもと  
白球に夢を追う少年たちの季節がきた—。

ふるさとの風  
~August~

# Field of Dreams — 白球の記憶 —

神都の野球人 沢村栄治と西村幸生

Baseball — 野球が日本に伝来したのは明治の初め。  
その時代の俳人正岡子規は野球をこよなく愛し、文学を通じて野球の普及に貢献した。

「九つの人 九つの場をしめて ベースボールの はじまらんとす」

ベースボールの歌九首より 正岡子規

ピッチャー＝投手、バッター＝打者、ランナー＝走者 等、野球用語を数多く翻訳したのも子規である。

伊勢市の南東小高い丘陵に位置する倉田山球場の前、二人の野球選手の銅像が向かいあって立つ。  
沢村栄治と西村幸生——。プロ野球草創期に貢献・活躍し戦場に散った偉大な投手である。

伝説の名投手沢村栄治は大正6年(1917)宇治山田市岩淵町で産声をあげた。明倫小学校野球部ではエース沢村の投げる試合はアウトの半分以上が三振で占められたという。類い希なスピードとコントロールを身につけた沢村の名は「神都の大投手」として全国に知られていった。

京都商へと進学した彼の投球にはさらに磨きがかかった。3回の甲子園出場を果たし、1試合25奪三振を記録するなど大投手の片鱗を見せた。最年少で日米野球に参戦した沢村は、かのベーブ・ルースを三振に仕留める快投をみせた。全米チームに鮮烈な印象を与えた沢村の名前は「スクールボーイサワムラ」として尊称されるようになったという。

その後巨人軍に入団。プロ野球のエース第1号沢村栄治の栄誉は計り知れない。日本のプロ野球史上初のノーヒットノーランをなしとげたのは昭和11年(1936)9月25日、甲子園球場での大阪タイガース戦であった。彼はその後、二度のノーヒットノーランを達成し、プロ野球初代の最高殊勲選手(MVP)も手にしている。

昭和19年(1944)戦地で27歳の生涯を終えた沢村栄治の背番号14を、巨人軍は初の永久欠番としてその功績を永遠に讃えることにした。さらにプロ野球功労者としての野球殿堂入りの第1号にもなった。そして彼の名前はプロ野球で最も活躍した投手に与えられるタイトル「沢村賞」として永遠に残されていくことになる。

伊勢市岩淵町の一畝坊墓地に「G」のマークの入った野球ボール型の彼の墓がある。  
ボールの後ろには彼の背番号である「14」が彫られている。

一方、西村幸生は明治43年(1910)沢村より7年早く宇治山田市大世古に生まれている。厚生小学校、宇治山田中(山中)へと進み、関西大学、阪神タイガースではエースとしてチームの黄金時代を築いた。巨人キラーと呼ばれ、昭和12年(1937)の沢村栄治のいる巨人との優勝をかけての三連戦は今も「伝統の一戦」として語り継がれている。しかし彼もまた昭和20年(1945)35歳の生涯を戦地で終えることになる。後に沢村と同様、野球殿堂入りの栄誉にも名を連ねることになった。

神都伊勢の大投手沢村栄治と西村幸生。現在伊勢では、少年野球の小学生の優勝旗を沢村旗、中学生の優勝旗を西村旗と名付け熱戦が繰り広げられている。

戦後67年がたとうとしている。  
偉大な先人達の全盛期の残像を知る人は少なくなりつつある…。  
戦前の伊勢は野球王国だったのだ…。

球児の夢舞台、夏の甲子園が終わりを告げる頃  
和らいだ日差しと風が秋を運んできた—。

➤ 不滅の大投手 沢村栄治 (鈴木惣太郎/著 恒文社 L783/ス)

➤ 初代巨人キラー 阪神の名投手 西村幸生の生涯 (中村博男/著 かのう書房 L783/ナ)

図書館だより  
2012年8月号より

